



## インドネシア

# 9 ボゴール農業大学 整備拡充事業(2)

A  
B  
C  
D

ボゴール農業大学において、施設整備や教官の留学等を実施することにより、内部効率向上、教育の質的・量的拡充、研究活動の強化を図り、もって人材育成および知識・技術の有効利用を通じて、インドネシアの農業開発に寄与する。

承諾額/実行額 77億1,600万円/69億3,500万円  
借款契約調印 1994年11月  
借款契約条件 金利2.6%、返済30年(うち据置10年)、  
一般アンタイド(コンサルタントは部分アンタイド)  
貸付完了 2002年12月  
実施機関 教育文化省高等教育総局



外部評価者 原口 孝子(グローバル・リンク・マネージメント(株))  
現地調査 2004年9月

## 評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに農学部、獣医学部、理学部を対象とした施設整備、教官の留学プログラム、機材調達およびその活用にかかる技術支援等が行われた。建設工事や機材調達等の遅れにより、期間は計画を上回ったが、事業費は計画を下回った。

卒業までの年数は、1993年には、対象3学部平均5.1年、大学院2.2年だったのに対し、2003年にはそれぞれ4.8年、2.1年に短縮し、内部効率<sup>\*</sup>は向上した。大学院生数は、94年の対象3学部計723人から、03年には1,577人へと増加した。修士号または博士号保有教官比率は、93年の対象3学部平均62%から、03年には84%となり、00年に全学部平均70%以上とする目標を上回り、教育の質的・量的拡充がみられた。研究活動の件数も、94年の276件から03年には410件に増加し、30社以上の企業と共同研究・受託研究を実施している。

運営・管理を担当している当大学では、法人格取得に伴い予算および組織面で裁量権が拡大し、自己収入の増大に努めており、技術および体制面は問題なく、財務面は良好である。

本事業の教訓として、施設建設と合わせて高度実験機材の導入を実施する事業では、機材選定・入札と建設工事の進捗に注意を払い、建物の竣工後できるだけ早く適切な仕様の機材が設置されるよう事業を実施することが挙げられる。

<sup>\*</sup> 教育におけるインプット(入学者)とアウトプット(卒業生)の関係。教育機関に入学した学生が、いかに効率的に所定の学業を遂行し卒業したかを示す。

## 第三者意見

国内初の法人格取得国立大学としての地位と本事業で整備された施設を活用し、国内外の民間企業との研究活動を通じた連携をさらに進めていくことが望まれる。

有識者 Ms. Armida Salsiah Alisjahbana (学者)

ワシントン州立大学博士(経済学)。現在、バジャジャラン大学経済学講師、人口・人材開発センター所長。専門は財政、教育経済、経済開発等。

### ボゴール農業大学の概要

首都ジャカルタから約60km離れた西ジャワ州ボゴール市に位置し、20世紀初めにその前身が設立されたインドネシア最古の国立大学の一つであるとともに、同国における農業教育・研究に関して最高学術水準を有する大学である。開学以来、同国の農業教育・研究活動の拠点として専門的な技術・知識を有する人材を輩出し、国内大学教官の再教育や同国の農業政策への助言を行ってきた。



獣医学部付属病院

### 本事業による効果●臨床実習機会の提供

本事業により建設された獣医学部付属病院は、同学部の学生に臨床実習機会を提供しており、大学院生が交代で実際の診療活動に携わっている。また、本事業で整備・調達された既舎・機材等を使用した実習機会も拡大している。



診療活動中の大学院生